

松波むかし語り—ここに住み続けて その8

今回のお客様

ある時は英会話の先生、ある時は交通指導員

荒井 洋子^{さん} 67歳 3丁目

いつも夏祭りになると制服姿で交通指導にあたる荒井さんは、じつはこんなにさまざまな顔を持つ方だったんです。

“いろいろなことに首を突っ込んできたのは、人が好きで子どもが好きだからでしょうね!”



荒井さんが主宰する英会話教室は、千葉商の正門前にあります。住宅兼教室というところでしょうか。なぜ英会話教室を? 「父がアメリカ人だったために、興味があってニューヨークに行ったら、私が日本で受けた英語とリズムもスピードも全然違うんですね。それで毎年一度、ネイティブ・ランゲージに触れようと、主にアメリカ東海岸に出かけていました。友人や子どもたちを連れて現地の小学校を訪問し、日本文化の交流をしホームステイなどするうちに、あちらにも友人が生まれました」。国際人を育てるための橋渡し役ですね。「子どもたちは背中をポンと押してやれば、言葉も覚えるし買い物もできるようになります」。旅行社の計画するツアーでないため、直接の触れ合いがとても効果的だと言います。

いまは成田空港に降り立つ外国人の日本訪問をお手伝いするNPOを立ち上げる準備中だとか。人と交わることにくっつきがありません。「父の影響でしょうか、自由に育てられたけれど行動には責任を持たされる、そんな生き方を学びました」。子どもの頃は渋谷の道玄坂で遊んでいたそうです。



米国に交流訪問中の荒井さん(中央)

松波にはどうして? 「パン屋を営んでいた古川さんと知り合いで、教室と住みかが兼ねられるというので越してきました」。もう8年になるそうですが、松波の印象は? 「お年寄りの多い街ですね。“寝に帰るだけ”という若い人たちとのつながりをどうつくるかが課題でしょうね」。何かヒントはありますか? 「若いお母さんたちが活躍できる場をつくってほしい。その点で、いまの公民館の使われ方はもったいないです。仕事で市内のいくつかの公民館にお世話になっていますが、最近では教育委員会の指導もあり、子どもの声が聞こえる公民館づくりをそれぞれが考えています。松波も、元気な活気あふれる公民館になったらいいですね。」荒井さんはさまざまな資格や肩書きをお持ちです。健康管理士一般指導員にガールスカウトリーダー、公安委員会の委嘱を受けた交通指導員は23年間のベテラン、そして千葉中央交通安全協会の女性部長という肩書きも…。「今年9月に、自転車の交通ルールが大きく変わって、歩道の使い方や自転車に乗ってカサをさすことが禁じられました。そういうルールを学ぶ教室を公民館で開いてもいいと思いますし、PTAのみなさんが春先に横断歩道に立たれますが、あれももっと、細かいルールを学んでもらいたいですね」。

夏祭りでは毎年、お世話になっています。「今年のお祭りはにぎやかで良かったですね。子どもたちもあきらめずに、最後までおみこしをかついでいましたし……。松波は大きな街だから、町会も大きい。それにふさわしいにぎわいを取り戻すために、ぜひがんばってください」。